

Forest 通信

vol. 143

森林インストラクター東京会 会報

2025年3月1日発行

< 2025年度(令和7年度)FIT総会のご案内 >

森林インストラクター東京会(FIT)の2025年度(令和7年度)総会を下記の要領で開催いたします。

FIT総会

日時:2025年3月15日(土)12:30~18:00(受付12:00より)

第1部 12:30-14:00講演会 講師:高橋喜蔵さん

テーマ「最近話題となった植物たち」

(参加費は無料。参加者は総会本会への出席が前提。オンライン配信はなし。)

第2部 14:15-15:45 総会(本会)

第3部 16:00-17:45 懇親会(参加は任意。会費1,000円。)

会場:後楽園「林友ビル」6F 日本森林林業振興公団会議室
文京区後楽1-7-12

地下鉄「後楽園」駅徒歩6分、JR「飯田橋」駅徒歩7分

総会議題:本会報の総会議事次第を参照してください。

出欠:

今回の総会は昨年に引き続き、会場でのリアル出席に加えてリモート(Zoom)参加(傍聴)を併用するハイブリッド型式とします。

Zoom参加者は傍聴者の扱いとなりますので、出欠としては出席ではなく、欠席ですので、委任状の提出をお願いします。傍聴者扱いですが、意見や質問は可能です。

ML会員は、MLにて別途連絡の総会開催案内のフォームメールにて出欠を回答してください。非ML会員は別途送付の総会開催案内に同封の葉書にて出欠を回答してください。

出欠の回答締め切りは、3月10日(月)。尚、友の会会員は、参加できません。

お願い:総会成立要件である定数(委任を含めて会員総数の1/2以上)を確保する必要がありますので、欠席の場合は支障のない限り、委任状の提出をお願いします。

尚、委任状には、議案ごとに賛否をご記入できるようにしています。

総会議事次第

1. 開会宣言と定足数報告
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 決議事項

第1号議案:2024年度全体・各部会活動報告および決算報告・監査報告

第2号議案:会則改訂の件(「森の日」運営委員会の定義変更)

第3号議案:2025年度運営体制(運営委員)

第4号議案:適正な年会費および繰越金の使い方

第5号議案:2025年度全体活動方針・各部会活動計画および予算案

5. 議長解任と閉会宣言

本号は、総会当日の議事資料となります。フォレスト通信の印刷物は配布しませんので、各自(印刷等で)閲覧できる準備をして出席・参加してください。FIT名札もお忘れなきようお願いいたします。

2月「森の日」の結果を受けた仮決算見込みおよび予算案は、FITデータベース(旧HP)に掲載します。総会への出欠および欠席の場合の委任状発信の判断にご活用ください。決算見込みは、会計監査終了後に最終決算に入れ替えます。

総会は、FITの最高決定機関であり、運営全体にわたって1年間の活動を総括し、次の1年に向けての活動の方向付けをするスタートの機会となります。日頃FIT「森の日」に参加できない方も是非ご出席いただき、ご意見を賜りたく存じます。

< 2025年度総会承認事項 >

第1号議案:2024年度(令和6年度)全体・各部会活動報告および決算報告・監査報告

◎2024年度全体活動報告

前任の宮入芳雄さんから引き継いだ新会長小菅智彦さんの就任1年目となりました。

会の年間行事としては、2024年3月16日に2024年度FIT総会を開催。前後に講演会、懇親会を実施しました。8月3日に暑気払いを実施。2025年1月11日に新年会を開催。入会説明会、観察会、懇親会を実施しました。幹事の入会3年目「みきの会」の皆様大変お疲れ様でした。運営委員会(森の日)は、2024年4月、6月、10月、12月、2025年1月(臨時)、2月と6回実施しました。

年度初に次の6項目を課題として挙げました。①適正な会費、繰越金の使い方の検討、②安全対策強化、③知名度アップ、④新規事業への取り組み促進、⑤運営委員会「森の日」運営委員メンバーの明確化、⑥新規活動支援制度の活用。

①は、4月「森の日」にて「適正な会費、繰越金の使い方」に関するプロジェクトチーム(PT)の組織化を決め、6月「森の日」にてPTを立ち上げました。PT内の検討を重ねて10月「森の日」にて中間答申をし、その後会員全員へのアンケートを実施し12月「森の日」に最終答申が提出されました。最終答申は「森の日」で協議され内容の合意を得ました。総会での承認(第4号議案として提案しています)を経て、来年度から実施の方向で進めていきます。

尚、不測の事態に備えて新たに準備金を設ける必要があるかどうかの検討の為、12月13日に小菅会長他が、有識者である弁護士に「訴訟発生時の任意団体の責任範囲につい

でのヒアリング」を実施しました。結果、新たに準備金を設ける必要はないと判断し、12月「森の日」に報告しました。(第4号議案に盛り込まれています。)

②は、従来からの安全部会の研修や情報提供に加えて、事業部会より、6月18日ヒヤリハット発生の報告に関する事例を一覧表に取り纏めて事業部会HPに掲載する旨の協力依頼が発信されました。

③は、PTの最終答申の中で取り上げ、来期に向けて繰越金を活用して取り組む提案がなされています。PTの繰越金の使い方には、FIT三十周年記念行事の実施(2026年)も提案されています。

④は、公益財団法人森林文化協会主催のグリーンセミナーへの講師派遣が立ち上がり、また公益財団法人東京都農林水産振興財団の「森林浴登山」の企画立案およびイベント遂行案件などの準備を進めています。

⑤は、会則規定の変更を含めた案が提案され、「森の日」で協議の上、賛同を得ました。総会の議案(第2号議案)として提出されています。

⑥は、2024年度総会で承認された新制度ですが、今年度中に支援申請はありませんでした。2025年度には、有効に活用されるように働きかけます。

イベント関連でのCONE保険の利用実績ですが、2024年度(1月まで)で3,025人で、2023年度(1年)実績3,528人のレベルを1割以上下回る予想です。2024年度当初(3月～5月)は昨年度よりイベント参加者数が回復しましたが、年度途中(6月～9月)は昨年度を下回り、その後(10月～1月)は昨年度並みに回復しています。理由は下記の通りと思われます。

(1)イベントの安全な運営の観点から、イベントの参加者数を抑え気味にするグループがあった。

(2)荒天の予報により中止としたイベントが多かった。

(3)異常な猛暑日が続き、夏場のイベント開催を自粛するグループが多かった。

いずれも安全上の観点から適切な判断をしたもので、健全な姿と思います。

登録グループは、二つ増え、現在27。登録グループも活発に活動を実施しており、CONE保険の利用実績のうち、イベント数で2024年度は約3割を占めています。

2025年2月末時点での会員数は、356名。昨年度末に比べて6名増。内2024年度(令和6年度)の退会者は16名。新入会者22名。

◎2024年度各部会活動報告(各部会の報告は別紙①～⑤)

① 安全部会

② 広報部会

③ 研修部会

④ 友の会運営部会

⑤ 事業部会

◎2024年度(令和6年度)決算報告・監査報告

<別紙⑥>

第2号議案:会則修正の件

運営委員会(森の日)の運営委員の定義明確化を図る。

運営委員会(森の日)は会員全員が参加可能な開かれた会議体であり、質問をしたり、意見を述べたり議案を提出することはできるが、意思決定(議決権)は総会で承認された代表者である運営委員(役員、部会長および総会で承認された一般会員)が行うこととする。

(修正内容は、別紙⑦)

< 現会則・会則補足資料 >

現会則の規定	<p>第7条(総会および運営委員会) 第3項 運営委員会は役員、部会長および 出席協力者(以上を運営委員と称す)のもとで偶数月に定例的に開催(「森の日」と称す)し、運営活動事項を協議実施する。尚、必要に応じ事務局長並びに運営委員の発議により臨時開催できるものとする。</p>
現会則補足資料	<p>◇「森の日」について 「森の日」は偶数月の第三木曜日に開催され、運営委員会として日常活動のあり方等について協議する。 協議事項は各部会の活動報告や計画検討の承認・決定で、出席者を運営委員とし、会員に参加資格がある。</p>

< 会則など改定案 >

会則の規定	<p>第7条(総会および運営委員会) 第3項 運営委員会は役員、部会長および 総会にて承認された数名の会員(以下を運営委員と称す)のもとで偶数月に定例的に開催(「森の日」と称す)し、運営活動事項を協議実施する。 運営委員は運営委員会での議決権を有する。 会員は運営委員会に参加し、質問や意見を述べたり、議案を提出をすることができる。 尚、必要に応じ事務局長並びに運営委員の発議により臨時開催できるものとする。</p>
会則補足資料	<p>◇「森の日」について 「森の日」は偶数月の第三木曜日に開催され、運営委員会として日常活動のあり方等について協議する。 協議事項は、総会で決められた事項のフォローや各部会の活動報告や計画検討の承認・決定などで、議決が必要な案件の議決権を有する運営委員は、役員、部会長および総会で承認をされた会員とする。 会員は「森の日」に参加資格があり、会議中に議案に関する質問や意見を述べたり、議案を提出することができるが、議決権は有しない。</p>

< その他 >

- ・議決権を有する
会員の決め方 役員(会長、副会長、事務局長、会計、監査)、部会長(安全部会、研修部会、事業部会、広報部会、友の会)以外の議決権を有する会員の決め方
 - ①人数:5-6人(考え方:現会員約350人の5%程度)
 - ②任期:選出された日から2年後の総会まで。再任はこれを妨げない。(役員と同様)
 - ③承認:総会において会員の中から選任する(役員と同様)
 - ④候補者の選出:候補者を公募(自薦、他薦)し、森の日にて事前にノミネート。
 - ⑤その他候補者:入会3年目、4年目(今後の会運営を担う人材)より各1名
- ・運営委員の謝金 役員、部会長以外で議決権を有する会員の謝金は、4000円/年とする。(臨時業務並み、5回/年の定例会議に出席)
- ・運営委員の公募 **公募の結果:横田幹夫さん、横井行男さん、飯塚義則さんが推薦され、ご本人の内諾を確認済み。**
入会3年目:萩原卓さんの内諾を確認済み。
入会4年目:対象者なし

第3号議案:2025年度(令和7年度)運営体制(運営委員)

会長	小菅智彦	(12年)	留任
副会長	脇本和幸	(28年)	新任
事務局長	藤岡眞	(28年)	留任
会計	飯島雅已	(29年)	留任
監査	丹野修	(29年)	新任
広報部会長	鍛冶健二郎	(29年)	留任
安全部会長	古谷一祐	(令1年)	留任
事業部会長	脇本和幸	(28年)	留任
研修部会長	小勝眞佐枝	(25年)	留任
友の会運営部会長	氏家清高	(令3年)	留任

上記に加え以下の会員を運営委員とする

榎田幹夫	(25年)	新任
横井行男	(29年)	新任
飯塚義則	(29年)	新任
萩原卓	(令4年)	新任

第4号議案:適正な年会費および繰越金の使い方の件

◎適正な年会費

「適正な年会費、繰越金の使い方」プロジェクトでの検討・分析の結果、過去のFIT年間支出は会員一人当たり4,300円から4,400円でFIT全体が運営されていることが確認されました。会員全員への2回のアンケートの結果も踏まえて、年会費は現在の5,000円を維持することとし、以下の施策を実施します。

- ①経費(年間支出)の適正化として、会員のレベルアップを担うFIT会員講師料を2,000円の増額と部会の運営を担う部会スタッフ手当を1,000円増額する。
- ②FITの活動の更なる発展と継続の為、各部会(事業部会、研修部会、安全部会、広報部会)の運営スタッフを増員する。(各部会の2025年度予算申請に含める)

尚、有識者である弁護士への聞き取りの結果を踏まえて、不測の事態に備えた新たな準備金は設けず、不測の事態が発生して費用が掛かる場合は予備費で対応することとします。

◎繰越金の使い方

2024年2月に会員全員を対象に実施した年会費に関するアンケート、PT内での検討、更に10月に実施したアンケートなどの結果を踏まえて、以下のように取り組みます。

- ①FITの知名度を更に向上させ、活動する仲間を増やし、イベントの参加者を増やし、会員の活動機会を拡大する為、以下の取り組みを実行します。
・お客様(学校、企業、公共団体)向けのPR資料(販促パンフレット)を更新し、キャッチコピーを見直し追加する。
・ホームページ(トップページ)を外面向けと会員向けに見やすく改善する。
・若い人向けにSNSの活用や動画配信

できる担当者を選任し、広報活動を拡大する。・広報誌（Forest通信）を外部向けに内容とスタイル（写真の掲載）および発行回数を改善する。

②FITの活動の再認識や会員の結束、未来に向けての活力を高める為に、森林インストラクター東京会設立節目の行事を行う。・三十周年記念講演会や記念冊子（会報の縮小版）や懇親会などの行事を企画実施する。「三十周年記念行事準備・実行委員会」を2025年度に組織し、2026年度の実施に向けて準備をはじめます。

③ホームページのセキュリティー向上を検討します。事業部会のメーリングリストがネットに流失した件の対応を検討する過程で、現行のJIMDOのセキュリティーが甘いのではないかとの指摘があったことに鑑み、システムの変更を含めたホームページのセキュリティー向上を検討します。上記①～③の取り組みに対し、繰越金の内3,000,000円を特別会計に移行する。具体的な使途および金額については、都度「森の日」で審査して可否を決定する。（2024年度末繰越金見込み：約370万円）

第5号議案：2025年度（令和7年度）全体活動方針・各部会活動計画および予算案

◎2025年度全体活動方針

2024年度は、小菅智彦さんを会長に迎え、新たな体制での船出となりました。2025年度は、会費や繰越金を活用して、各部会の活動を更に充実し、また、FITの活動がより発展していくべく諸施策を実行に移す年度となります。各登録グループが独立した活動を更に充実して展開していくことも期待されます。

各部会とのヒアリングで、部会の活動の充実を図るうえで、運営スタッフや部会長の後任がなかなか見つからないとの課題が浮き彫りになりました。そこで将来のFITの活動を支えていくことが期待されるFIT入会3年目、4年目の世代から、研修部会、広報部会、安全部会の運営スタッフを選出し、部会の活動に参画する仕組みをつくります。但し、まだ仕事をしているメンバーもいるので、負担があまり大きくない範囲での支援、協力をお願いするようどの程度の負担でどんな業務を担うことになるのか明確にしていきます。

FIT入会後の役割として、1年目は事業部会の活動の中の「高尾山親子自然観察会」幹事役、2年目は研修部会の活動の中の「木の日」研修の幹事役、3年目は「新年会」で入会説明会、新年観察会、新年懇親会の幹事役を担ってもらっています。今後は部会の運営にも直接かかわりをもって参加していく役割も期待しています。

また、会員相互のスキルアップやコミュニケーション拡大の為に、研修部会主催の内部研修だけではなく、会員や登録グループ主催の研修（所謂ワンコイン研修）の実施、会員相互の情報交換や気楽に集える「交流の場」を設けることも検討します。具体的には、研修部会は情報の整理だけで開催には直接かかわらず、企画運営はFIT会員や登録グループが実施する研修の推進、またSNSを利用して会員同士での情報交換やノウハウの伝授ができる「交友の場」をWeb上に設けるなどです。

いずれも人材の確保が必要な案件となります。実際にどうやって気持ちよく参加していただく体制を作り上げるかが鍵になると認識しています。努力をしていきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

◎2025年度各部会活動計画（各部会の計画は別紙①～⑤）

- ①安全部会
- ②広報部会
- ③研修部会
- ④友の会運営部会
- ⑤事業部会

◎2025年度(令和7年度)予算案

<別紙⑧>

尚、2024年度決算見込み(別紙⑥)および2025年度予算案(別紙⑧)は、Forest通信には記載していない。(決算見込みと予算案はその性格上別途FITデータベースに掲載します。) 会員の方はFITデータベースよりダウンロードいただけます。

別紙①

安全部会報告

安全部会長

【2024年度報告】

昨年度は1件のCONE保険適用の事故が起りました。参加者が公園内の濡れた石畳の下り坂で足を滑らせて尻もちをついた際に両手をつき痛みが出て受診したものです。幸いにも骨折には至らず固定する処置に留まりました。野外活動における人身事故で圧倒的に多いのが「転倒・転落」と言われていますが、引き続き足を滑らせて転倒することは誰にでもどこでも起こり得ることであることを認識して、常に足元への注意を払うことに留意することが重要だと思います。

安全意識の向上の一環として、会員に呼びかけ救命救急講習の修了者リストを作成してFIT-HP安全・保険関係文書に掲載・アップデートしており、1月末で42名の会員が修了者リストに登録されました。

また安全部会の体制を充実させるため新規スタッフの募集を行いました。応募者はいませんでした。

安全部会の活動として、以下の安全講習を行いました。

* 4月4日(木)木の日研修で、ZOOMによる「安全研修・座学編」を開催しました。

第一部では保険代理店オフィステラの町頭氏による「事故事例から見える日頃のリスクマネジメントとCONE保険について」と題する講演をして頂きました。

第二部では安全部会から「FIT安全対策の手引き」の使い方、CONE保険申請手続き等について説明しました。

* 4月21日(日)に「安全研修・野外実践編」を、親子観察会の下下見を兼ねて、実際のコースを歩いて、本番で想定されるコースの状況、注意点を参加者全員で確認しながら行いました。

【2025年度活動計画】

今年度もFITメンバーの安全意識の向上を図っていきたくと思っています。従来はCONE受付窓口業務、事故対応などは部会長・副部会長で行っていますが、今年度も1-2名にスタッフとして入って貰うことを検討しております。

安全部会の活動として、以下を予定しています。

* 4月3日(木)木の日研修で、ZOOMによる「安全研修・座学編」を開催します。

第一部ではFIT平野裕也氏による安全登山についての講演を行います。

第二部では安全部会から「FIT安全対策の手引き」の使い方、CONE保険等について説明します。

* 「安全研修・野外実践編」は、今年も初夏の親子観察会の下下見時に、実際のコースを歩いて、実践形式で行います。日程・詳細は、後日FIT-MLで連絡致します。

新入会員の皆さん以外にもベテランの会員も奮って参加をお願いします。

以上

2024年度活動報告

2021年度から新広報部会による新しいFITホームページの運用を始め、もうすぐ4年が経ちます。FIT-HP単独による一極集中から各部会、各クラブによるHPの運営の分散化も定着しつつあります。各部会、各クラブでは知恵を出し合って、魅力あるHP作りを行っています。しかしながらFIT会員や一般の方が観察会情報や森林や林業に関する情報、高尾山に関する情報などを得たいと思って最初に目をするのはやはりFIT-HPであり、FIT-HPの役割は大きいものがあります。広報部会では2024年度も魅力あるHPを目指して活動を行ってまいりました。しかしながら広報部会の活動の大半を占めるのは各部会、各クラブから掲載依頼されたイベントの案内や活動報告をFIT-HPに掲載する作業であり、広報部会メンバーは日々それらの作業に追われていたのも事実です。

Forest通信については2024年度も内容の充実を図るため、いろいろな企画を考え、各方面のFIT会員の方にインタビューしたりして、趣向を凝らした取り組みを行ってきました。また事業部から提案のあった最新イベント情報をトップページに表示する件については、スライダー画像と併せて最新イベント情報をトップページに表示するように変更しました。その結果、ふれあい事業などの集客増につながりました。その他、新しいコンテンツを考えたり、SNSの活用や動画配信を検討したりしましたが、まだHPの変更や追加には至っていません。

そこでFIT会員や一般の方からアイデアをお聞きするためにアンケートを募集することにしました。またFIT-HPのどのコンテンツがよく閲覧されているか、全体として閲覧数はどう変化しているかを調べるためにFIT-HPアクセス回数を毎月調べ、FIT会員にお知らせすることにしました。

2025年度活動方針・計画

2025年度も引き続き継続して、改善に努めます。そのための失敗を恐れることなく常に新しいコンテンツを試行していきます。

ホームページは一般閲覧者と会員のための2本柱で情報発信に努めてまいります。

ホームページは会員すべての利益に資するツールでなければなりません。一人でも要望があれば新しいコンテンツを取り上げていく所存です。すべての会員の利益に資する運営を心がけます。

2025年度の活動テーマとして以下のものを掲げました。

1. 一般の人が見て分かりやすく、イベント参加したくなるようなホームページ
2. FIT会員にとってより興味深い内容の記事を掲載
3. SNSと連携して情報発信する。
4. 外部向けのForest通信の発行

これらの実現方式を模索しています。また会員や一般の方へのアンケート結果も踏まえて、2025年度も閲覧者が読みたくなるような魅力あるホームページ目指して邁進する所存です。特に4の外部向けのForest通信の発行については現状の広報部会メンバーでは手が足りない為、新しいメンバーを募集します。

ホームページは皆様の投稿により成り立っています。投稿がなければ魅力的なホームページにはなりません。会員の皆様と一緒に魅力あるホームページを作り上げていきたいと考えています。

今後とも会員の皆様のご協力をお願い致します。

【2024年度研修部報告】



＜野外研修「樹木観察入門」の風景＞

2024年度の研修は、野外研修、木の日研修、草木染指導者研修、実践・森づくり技術講座等を実施しました。

2024年度は、計14回の野外研修を予定していましたが、1回雨天中止になったシダ研修以外はすべて実施できました。インストラクション入門、学名、樹木、野鳥、冬芽、などの基礎的な研修および、昆虫、高山植物、キノコ、地形、地衣類などの研修を実施しました。2024年度の野外研修参加者は、延べ218名でした。

木の日研修(座学)は前年10月に行ったアンケート結果をもとに、6回はリモート、3月の総会時は対面で計7回実施しました。Zoomを利用した研修は内容を録画で見ることができ、仕事のある方、夜に外出するのが困難な方からは大変好評です。2024年度の木の日研修参加者は、延べ304名でした。

年間を通じて、草木染指導者研修は全9回、実践・森づくり技術講座は全6回の研修をすべて(各体験会を含む)実施することができました。

詳しい活動報告は、FIT研修部会ホームページ
<https://fit-eknshubukai.jimdofree.com/>をご覧ください。

【2025年度活動計画】

2025年度も新人の方向けの入門研修から専門的な内容の研修まで、色々と計画しております(別表参照)。まだ、日程が決まっていない計画がいくつかありますが、順次決定していきます。決まり次第、ホームページの研修計画の表に入力しますので、時々チェックしていただければと思います。昨年10月にアンケートでご希望いただいた研修も、いろいろと準備しております。

引き続き2025年度の木の日研修は、アンケートの結果を反映しリモートで実施する予定です。(3月15日の総会時の研修は、対面で行います。)

今年度の木の日研修の運営は、森林インストラクター試験に合格して2年目になるFITのキブシ会の方々が担当します。皆さんやる気に満ちていて、どんな内容の講習になるのか今から楽しみです。

草木染、森づくりをはじめ、かなりの野外、木の日研修でFITの会員の方々が講師を務めてくださっています。それだけの専門知識や技術のある方が、FITにはたくさんいらっしゃいます。まずは参加してみてください。

ともに学び、ともに体験することで、お互いを高め合い、森林インストラクターとして成長していきましょう!

月	野外研修	木の日研修	草木染指導者研修	実践・森づくり技術講座
3		15日(土)総会前 12:30~14:00 テーマ「最近話題となった植物たち」 講師:高橋喜蔵(FIT) 場所:林友ビル6F(対面のみ)	3月4日(火) 草木染初心者入門講座 場所:川崎市黒川青少年野外活動センター 定員:12名	3月1日(土) 「森づくり体験会」 場所:鳩ノ巣フィールド 定員:10名
4	2日(水)「春の山野草～スマレを中心に～」 場所:日影沢～郵便道～高尾山 講師:中西由美子、藤田富二(FIT) 定員:14名 12日(土)「樹木観察入門」 場所:皇居東御苑 講師:小菅智彦(FIT) 他 定員:8名 26日(土)「季節の花観察研修」 場所:昭和記念公園(ゆめひろば) 講師:臼井治子(FIT) 他 定員:8名	3日(木)安全研修 第1部「安全登山の注意点と装備」 講師:平野裕也(FIT) 第2部「『安全対策の手引き』の使い方・CONE保険申請手続き」 講師:入江克昌(FIT) 場所:リモート 定員:99名	3月に募集開始 定員6名1年間通し全8回(予定) 場所:川崎市黒川青少年野外活動センター 4月8日(火) 草木染入門 身近な野草で染める	3月に募集開始 定員10名1年間通し全5回 場所:鳩ノ巣フィールド 4月19日(土) 「森づくり概要とノコ・ナタの使い方」
5	「野鳥観察入門」 場所:日影沢～一丁平～高尾山 講師:吉原邦男、榎本衛(FIT) 定員:15名 「学名から迫る植物の素顔」 場所:小石川植物園 講師:高橋喜蔵(FIT) 他 定員:8名	休会	5月13日(火) 媒染のはたらきと3色染め	5月17日(土) 「間伐と造材」
6	18日(水)「シダ研修」 場所:日影沢 講師:中西由美子、藤田富二(FIT) 定員:14名 クモ又は昆虫研修 予定	5日(木) 講師:太田猛彦(東京大学名誉教授) 題:未定 場所:リモート 定員:99名	6月10日(火) 赤の発色など	休み
7	休会	休会	7月8日(火) 受講生持ち寄り素材1	7月19日(土) 「大鎌の使い方と下草刈り」
8	24(日)～25(月)「高山植物入門」 予定 場所:尾瀬ヶ原 講師:飯田有貴夫、高橋喜蔵(FIT) 定員:14名	7日(木)未定 講師: 場所:リモート 定員:99名	休み	休み
9	「湿地、水辺の植物観察」 場所:渡良瀬遊水地 講師:中西由美子、藤原裕二(FIT) 定員:14名	休会	9月9日(火) 受講生持ち寄り素材2	9月20日(土) 「材の運搬と道づくり」
10	「バラ研修」 場所:神代植物公園 講師:飯田由貴夫(FIT) 定員:8名 「小泉現地ゼミ V」 予定 場所:未定 講師:小泉武栄(学芸大名誉教授) 定員:20名	2日(木) 講師: 場所:リモート 定員:99名	10月14日(火) 藍染め入門	休み
11	キノコ又はコケ研修 予定	休会	11月11日(火) 藍染め応用 藍の濃淡による模様出し	11月15日(土) 「木登りと枝打ち」
12	13日(土)冬芽観察入門 場所:神代植物公園 植物多様性センター 講師:臼井治子(FIT) 他 定員:8名	4日(木) 講師: 場所:リモート 定員:99名	12月9日(火) 伝統の模様出しに挑戦 雪花絞り 折り紙絞り	
1	休会	休会		
2	野鳥研修 場所:未定 講師:後藤裕子、他(FIT) 定員:15名	5日(木) 演題:未定 講師: 場所:リモート 定員:99名		
3		総会時(未定) 講師:		

(講師敬称略)

木の日研修6回(リモート6回,対面1回)
原則偶数月第1木曜日

原則第2火曜日

原則第3土曜日

別紙④

友の会運営部会

1. 2024年度の活動報告

年度前半は森林インストラクターの資格取得支援講座を実施しました。内容は森林インストラクター資格試験の4科目(森林、林業、森林内の野外活動、安全及び教育)の講義と演習及び実習です。3月のオリエンテーションでFIT及び友の会などの説明を行い、それ以降、各科目の講座を実施し、8月の模擬試験まで9回の講座を実施することができました。各講座の様子を見ながら参加されていた一般の方もいらっしゃいましたが、友の会の良さを理解していただき、途中から友の会の正会員となっていました。

資格試験終了後の年度後半は、森林インストラクター資格取得後の活動に役立つ、3つの基礎研修(森林作業、自然観察、野外活動)を実施しました。「森林作業」では森づくり作業として除伐作業と作業路の補修を行ない、「自然観察」では一人3分ほどの植物解説を参加者の前で披露し、「野外活動」では火熾しと飯盒炊爨を体験しました。

2024年度は5名の会員と一般で参加された2名の方が森林インストラクターの資格を取得されました。資格取得支援講座の講師及び運営スタッフの皆様、ご協力ありがとうございました。



オリエンテーション



模擬試験



基礎研修 自然観察

2. 2025年度の活動予定

昨年度と同様、今年度も森林インストラクターやFITの活動に関心がある方と、森林インストラクターの資格取得を目指す方を対象に友の会の活動を実施します。

友の会会員になるとFITメンバーリストに登録され、FIT会員と同等の情報が提供されますので、会員限定の研修会等に各自で参加することができます。

年度前半(3月～8月)は資格取得支援講座(9回)で、森林インストラクター養成講習テキストを使用した4科目の概要解説、過去問題を利用した演習、テキスト内容を公園内で確認する実習などを実施します。8月には模擬試験を行い、一人でも多くの会員が資格取得できるように取り組みます。

年度後半(10月～12月)は森林インストラクター資格取得後の活動に役立つ様に、「森林作業」、「自然観察」、「野外活動」の分野で基礎研修(3回)を実施します。

FIT会員の皆様へのお願いです。

2025年度「FIT友の会」会員の募集を2月4日から開始いたしました(詳しくは「FIT友の会」ホームページをご覧ください)。そこで、皆様の知人や友人の中で、森林や自然に興味がある方、FITの活動に関心がある方、森林インストラクターの資格取得を目指す方がいらっしゃいましたら、「FIT友の会」をご紹介ください。

部会報告と年次計画【事業部会】

1.2024年度活動報告(2024年2月15日現在)

2024年度は各イベントを通して、多くの方々に森林の大切さや自然に触れる楽しさを知る機会を作ることができました。毎月1回の定例会議(林の日)では、活発な意見交換を行いながら当初計画の案件をほとんど実施する事ができました。実施イベントは下表の通りです。特にネイチャークラフト体験では、子ども達が体験する様子をお父さん・お母さんが見守る姿はほほ笑ましく、私たちの活動の原点であると強く感じました。講師派遣の森林文化協会グリーンセミナーを3回、田園調布学園土曜プログラムのクラフト作りを新たに実施し、FIT会員の方々の活動機会を広げることができました。

イベント名称	実施件数 (回数)	一般 参加者数	FIT会員 参加者数	コメント
ふれあい推進事業	17	458	156	親子観察会4回含む、中止4回
講師派遣	7	283	41	学校2回、大人向け5回、うち森林文化協会グリーンセミナー3回を新規実施
田調布学園土曜プログラム	8	151	28	クラフト作りを新規実施
高尾山GC	9	240	145	
ネイチャークラフト小計	6	1,607	118	一般参加者数=クラフト制作個数
浅川市民センター祭り	1	63	7	
クラフト研修会	1		21	
みどりふれあうフェスティバル	1	197	25	
東京港野鳥公園フェスティバル	1	220	13	
すみだこどもまつり	1	1,004	36	
いちょう祭り	1	123	16	
低山はいかい	8		128	
事業部会合計	55	2,739	616	

2. 2025年度活動方針・計画

事業部会は、FIT会員の皆さんが活動・活躍する機会を、より充実し増やすための役割を担っています。2025年度も既存のイベントを確実に実施し、また新しいイベントを検討し、実現に結び付けていきます。この活動のひとつの結果として、東京都農林水産振興財団と業務委託契約を結び、同財団の主催する「森林浴登山」の企画・催行を3回実施する運びとなりました。毎月1回の定例会議(林の日)は、FITや事業部会の情報や連絡事項の確認、各イベント担当者の現状報告や相談に加えて、事業部会の役割を充実させるための大切な議論の場と捉え、経験・入会年度・年齢・性別を超えて、自由闊達な意見交換を行います。更に4-Restsメールや事業部会MLを活用して、イベントスタッフやふれあい推進事

業の体験参加の募集、定例会議(林の日)への参加呼びなどを行い、より多くの会員の方が事業部会の運営や実施するイベントに関わる機会を、積極的に増やしていきたいと考えています。各イベントの2025年度の活動計画の概要は以下の通りです。

- 1)ふれあい推進事業:22イベント(含む親子3)を計画、新主幹事によるもの7。
- 2)田園調布学園:8講座を計画、うち公募により採用された新規が1(木質バイオマス発電の新たな時代を切り開く、国内初の「都市型木質バイオマス発電所」を知る)。
- 3)ネイチャクラフト:6への出展を予定。4月に新入会員向け講習会を開催。
- 4)高尾山GC作戦:7コースで、熱中症予防のため8月を除き10回実施。
- 5)低山はいかい:毎月実施し会員の親睦をはかる。
- 6)講師派遣:昨年度実施10件の継続を軸に展開。
- 7)森林浴登山:今年度より開始。公募の結果選んだ3件のイベントを実施する。

「原島幹典さんと奥多摩を歩く」研修会 実施報告

2025年2月18日

R4もりもり会 立川洋一

1. 奥多摩現地研修会 開催までの経緯

FIT先輩の原島幹典さん(H7)は奥多摩町で林業経営、そして「奥多摩・都民の森」で森林ボランティアへの指導を行っている。「フォレスト通信」140号「新人が先輩の話を聞く(おすすめの本)」の取材で初めてお会いして、これはもっとお話を聞きたい、原島さんの林地を訪問し学びを深めたいと考え、2024年11月9日に現地研修会、12月6日に木の日研修の講師をお願いした。

最初に、木の日研修で原島さんが教えてくださった東京都の森林の現状について、おさらいしておきたい。多摩地区の特徴の説明があった。

- ・ 東京都の森林: 都の面積の4割を森林が占め、森林の66%が多摩地域西部に偏在し(33%は島しょ)、その73%が私有林、21%が都立林である。国有林は2%と極端に少ない(他府県では20~30%)。
- ・ 人工林と天然林の比率: 多摩地域の私有林では60%が人工林で、全国平均41%よりも比率が高い。
- ・ 林齢構成は偏っている: 東京都の人工林の林齢構成は51年生以上が約8割(全国平均では5割)を占め、20年生以下は1割にも満たない。...拡大造林の影響。
- ・ 課題: 木材価格の低迷、シカ害、造林面積の縮小(林業技術者の仕事の減少)、担い手不足、ナラ枯れ被害拡大、山村地域社会の生活・文化と農林業の乖離...

2. 現地研修で観たこと・知ったこと

〈「原島幹典さんと奥多摩を歩く」全体図〉



A: 林地見学

- A1: 羽黒三田神社参道
- A2: 石尾根入口そば
- A3~A6: 林道そば

B: (旧)集落探訪

- B1: 絹笠(きぬがさ)
- B2: 城(じょう)
- B3: 三ノ木戸(さぬきど)

C: スギクネ(跡)観察

絹笠、三ノ木戸にて

〈林地を観る〉

奥多摩駅から、人工林の山の観方や氷川宿の暮らしや獅子舞など話を伺いながら、羽黒三田神社の階段の参道に入った。20分ほど歩いた参道途中の広場でスギ・ヒノキの植林地、自生のモミを観る。

そのすぐ上には、30年前に樹齢100年のスギを伐採した「その後の森」があった(※全体図の「A1」地点)。シカ害がまだ少なかった時代に育ったので、伐採後に放置していても、林相は移

行しながら広葉樹の森に「戻った＝再生した」。この時間の経過で「戻る・再生する」ことは、これはこれで自然の力なのだ。放置が全て悪いという単純なことではない。自然との付き合い方のひとつだと思った。

林相は移行して今はカシ類（アラカシ、シラカシ）が多い。ただし、今は奥多摩町も、シカの食害で木が侵入できず、草のままか、草も無い状態になってしまう。放置していると土壌の流出まで招きかねない。森林環境は確実に悪化している。

農指（のうぎす）集落を抜け、石尾根登山道に入り、原島家の林地（※全体図の「A2」地点）で説明を受けた。

40年ほど前、スギを密植し伐期を短くして付加価値の高い「高収益の森」を目指した。狙い通りに育ったが、時代は進むと買い手がいない。密植のままでは災害にもろい森になるので、東京都環境局の森林再生事業を利用して間伐しているところだ。

左側の一部は、20年前にスギを強く伐採してコナラを自生させた。侵入してくるモミは除伐した。シイタケの楕木に利用する狙いでコナラを育てたが、シイタケ栽培も始めたものの、サルに食べられてしまい中断した。なかなか狙い通りにはいかない。

原島さんの別な林地（※全体図の「A3～A6」地点）では、25年前に敢えて強い間伐（50%以上）を施した話を聞いた。森を明るくし広葉樹が入ってくるようにし、多様性を増す効果を狙った。こちらでは広葉樹が育ち、災害に強い森になってきている。

目的に合わせて、植林や間伐を仕掛けていた。目的通りにできる・できないがあるが、それを十年～数十年単位で検証しながら次の手を打っている、環境保全にも心をくだ林業家の姿があった。

林道沿い（※全体図の「A3～A6」地点）では、色々な山主が手掛けたスギ・ヒノキ植林地が随所にあった。スギ林とヒノキ林の特徴についても説明を受けた。

- ・ 林道沿いのスギ林。同じ時期に植林したのだが個体差がかなり出ている。スギは陽樹の性格が強いので過密になると樹高成長に負けて立ち枯れするものも出てくる。実生苗のスギ人工林はある程度の自然淘汰メカニズムが働くが、肥大生長ができず災害に弱い樹形となるため、過密になる前に間伐したほうがよい。
- ・ 林道沿いのヒノキ林。個体差は少ないが、ヒノキ林は陽が入らない。枝が落ちにくく幹に残り、過密になり林内が真っ暗になっている。草や落枝などのグラウンドカバーも無く、表土が流出してしまうと埋土種子も無くなり、伐採後の再生も困難になる。ヒノキ人工林は集中的にケアが必要だ。



対面の広葉樹の森を観る(小中沢林道)



原島さんの林地を観る(石尾根縦走路)

また、前半で人工林伐採後のカシ類を中心に再生し安定した広葉樹の森を観たが、小中沢林道から対面の山について説明を受けた（※全体図の「A3～A6」地点）。

ここも皆伐後の自然再生の力で、ススキ原から約30年で広葉樹の森になった。シカの被食圧（動物が植物を食べる強度）を何とか乗り越え「再生した」ようにも見える。しかし、安定した状態ではなく、茶色の地面が数箇所見えている。茶色い地肌は裸地で表土が流れるし、広葉樹

の下も心配な「きわどい山」だ。シカは群れで動き環境適応が速い。奥多摩にはカモシカもいてヒノキの苗を食べたり、ワサビ田がやられたりする。が、群れないのでインパクトは小さい。

〈旧集落・山村の暮らしを知る〉

東京都最高峰の雲取山(2,017m)への縦走路「石尾根」に入ると、昭和40年代に里に下りた旧集落「絹笠(きぬがさ)」(※全体図のB1地点)を通る。その後、石尾根から分かれ、生活道から小中沢林道に戻り、現存する集落「城(じょう)」(※全体図のB2地点)、そして「三ノ木戸(さぬきど)」(※全体図のB3地点)まで向かった。今日のコースは奥多摩駅から三ノ木戸までの往復だ。

急峻な山間地に集落を作る、その際は下から(南側の多摩川から)の強風や冷気を遮断緩和し、さらには火災の際の延焼を防ぐ防火壁として生垣を大規模に作りこんでいた。それが「スギクネ」※1である。びっくりだ。

「台スギ」に仕立てたスギを連続して植えた跡で、今は手入れをしていないため、スギたちは悶絶しながら生きながらえているというか、すさまじい姿をさらしている。京都の北山スギに見られる「台スギ」の樹種や仕立てる技術を当地までどう伝播されてきたのだろう。想像する他ない。



南側斜面の生垣スギクネ跡(絹笠)

※1:「スギクネ」は、いわば巨大な「台スギ」を並べて防風生垣用に仕立てたもの。スギの生理を理解してこそその特殊な手入れで育つ。

もう一つ驚いたのは、各集落には神社が必ずあったこと。稲荷神社、そして将門神社は2カ所(城・三ノ木戸)にあった。事前に資料配布された「奥多摩 山里歩き絵図」※2によると、この奥多摩町には将門伝説がかなり広範囲に残っている。

奥多摩町氷川の住人である原島さんは、平将門に権力支配者への従属や崇りへの畏れというより、畏敬の念、自分たちの守り神で感謝の対象として祀ってきたからこそ、現代まで大切に扱われてきたのだろうと説明してくださった。地域によっては、国の政策で移設(合祀)させられたケースもあったそうだが、将門伝説は生きていた。

※2:「奥多摩 山里歩き絵図」(全22集)は奥多摩町が発行し、奥多摩駅の駅前にある奥多摩町観光協会で無料配布している。2021年1月第5刷と人気が高い。21の集落の見どころ、モデルコース、歴史がギッシリ詰まっている優れもの。ちなみに将門伝説は、5カ所(2川井、3梅沢、6棚沢、12.南氷川、19峰谷)に掲載されている。

〈公の支援と効果を知る〉

多摩川沿いの奥多摩町、東隣(都心寄り)の青梅市、そして南の秋川沿いの檜原村、あきる野市はいずれも東京都の中で山林率が高い。東京都では、水道局・環境局・産業労働局がそれぞれ支援策を打ち出していて、民有林の多いこのエリアでは山主が整備に利用している。3つの局がそれぞれ森林整備のメニューを持ち、山主が選択できるのが利用しやすさにつながっているようだ。

東京都水道局は山梨県エリアも含め水源林を一体的に整備している。民有林の買い取り制度を作り、奥多摩湖や日原川の上流域の買い取り整備を進めている。また、「多摩川水源森林隊」を運営し受託した民有林で、ボランティアが一定量の間伐・枝打ちを20年以上続けている。「水源森林隊」は、多摩川の源流である山梨県小菅村、丹波山村、甲州市も対象としている。

東京都環境局は森林再生事業として、管理の遅れている私有人工林に対し、契約期間内(15年)の皆伐をしないことを条件に2回の間伐と林縁部の枝打ち施業を都の全額費用負担で行っている。

東京都産業労働局は従来から国の補助事業等を通じて林業振興を担ってきたが、近年は、東京都の単独予算による「花粉対策事業」として、同時に人工林の資源循環・再生を実現するため、小面積の人工林の皆伐、木材の搬出(市場価格での買い取り)、少花粉品種苗(スギ、ヒノキ)の植栽、および向こう30年間の保育施業を都の費用負担で行う事業を展開している。2025年度からシカ害対策の防鹿柵・ネット費用も対象にしたため、奥多摩地区では利用が加速したようだ。

3. これからのこと

参加者15名の感想を読むと、森林インストラクターとして林業をもっと勉強したいという声も響いてくる。以下に生の声を並べて報告する。

- ・ 現在の林業・これからの林業を考えたい。
- ・ 定常的に林業に関わる仕事があれば、森を守る仕事の従事者が減少してしまうことを知った。林業の置かれている厳しい現状を再認識した。
- ・ 山の整備の補助金は色々な仕組みがあり、その中でも東京都は手厚いことを知った。花粉事業については効果を疑っていたが、実際には皆伐した木材を搬出して多摩産材として利用されていること、一連の作業の(技術の)継承や人材育成に役立っていることなどを知った。
- ・ 林業の将来については、一個人が担うには限界があり、国が国の大切な財産としてどのように守っていくのか、将来を見据えた政策が必要と思った。
- ・ シカの食害は林地の下草の種類の偏りや裸地化、植林したヒノキの皮はぎを実際に見せてもらって、危機的な状況を目の当たりにした。
- ・ 放置林もあり、特にヒノキ林の手入れの必要性を感じた。
- ・ 林業の振興だけでなく、山村の振興が必要だと思う。
- ・ 人々が暮らした痕跡をめぐること、奥多摩の歴史や昔の暮らしに思いを馳せることができた。特にスギクネはその形にインパクトがあり、スギの生態を利用した昔の人の知恵に感心した。

林地を所有されている原島さんのお話は迫力があつた。原島さんの話は1回きりで終わらせたくない。机上のものと現場研修を併用して、ぜひとも継続してほしい。

参加者は、林地を覗ながら原島講師の解説を受けることができた。また、旧集落を覗いて山村の暮らしと将門伝説(※平将門:903年~940年)の存在を知ることができた。公(東京都)の支援が効果あることも知った。「観る・知る」ことは、次の「考える」時のベースになるだろう。

林業は複雑に問題が重なり、森林インストラクターとして自分は何ができるのか、役に立つことにつながっているのか、迷いながら自問は続くが、今後も何らかの形で勉強の場を設けていきたい。

※写真は参加者の志村久寿さん(R5)が撮影。

FITがつないだ 西川材の家

16-2004 白井操子さん

2024年12月15日 陽光を受けた
暖かなダイニングルームで取材をさせて頂きました
清水(好)

森林インストラクターには生産者としての林家の会員は多い。物は需要があって供給ができる。木材の消費者として森林インストラクターという立場から自宅を建築するという夢を実現された白井操子さんにインタビューをお願いしたところ、快諾していただき自宅を訪問することになりました。



ソーラーと薪ストーブのある再エネハウス

・森林インストラクターを目指すきっかけはどんなことですか？

以前は千代田区に住んでいて、横浜の高校に生物の教員として勤務していました。ただ、主人は千葉に勤務、2人の子どもを抱えて駅からゼロ分に住まいがあるとはいえ、7時7分発の電車に乗るのはきびしく、53歳を機に早期退職しました。その後、これからどうしようか思案中のところ、千代田区から東京都環境学習リーダー養成講習募集のよびかけがあり応募しました。1年半の講習後、環境活動や御岳山のボランティアをしていましたが、たまたまその中に森林インストラクターの人がいて興味を持ちました。近くにある林友ビルに過去問題集を求め、受験に取り組みました。

・FITではどんな活動に関わっていますか？

環境学習リーダーは約10年続け、「千代田区と森をつなぐ」などの企画では、FITの松井一郎さんや米倉久邦さんにも尽力していただきました。9年前に転居しましたが、それまでは主にパウロで活動していました。現在は特に活動はしていません。

・便利な千代田区から現在地(埼玉県寄居町)に引っ越された理由は？①

実は出身地はとなりの小川町なんです。だから故郷に居を構えたようなものです。親戚もこの周辺に固まっています。ある時、寄居町にある親戚の法事に行く道すがら、周辺環境の素晴らしさに惹かれて、将来はこんなところに住みたいなど常々思っていました。春の芽吹き、秋の紅葉、田畑や家並、それらが織りなす風景が私の描いていた好ましいものでした。

・便利な千代田区から現在地(埼玉県寄居町)に引っ越されたきっかけは？②

そんな思いを抱きながらFITで活動をしていました。故郷に戻りたいという思いはあっても、戻るには土地を手に入れ、家も建てなければなりません。当時、誰に建築を頼んだらよいのか皆

目見当がつかず探しているところでした。

そんな時、FITから森に関するシンポジウムがあるとの連絡がありました。そこで試しに行ってみることにしました。そして、出会ったのがシンポジウムの講師をしていた井上淳治さんでした。井上さんは当時、NPO法人西川・森の市場の代表理事でした。ここは西川材を使用した建築の設計・施工をしています。飯能市に所在する林家、製材所、設計事務所、工務店などが協業して地産・地消を実践しているところでした。そこで、井上さんに相談したところ、快く建築を引き受けてくれました。その後は、井上さんの植林地や製材所の見学、設計屋さんや工務店の選定など準備に忙しい日々を送りました。

同時平行で地所を探していました。不動産屋さんに紹介してもらった現在地は道路側には篠竹が密生し、奥は常緑樹や落葉樹が入り混じった雑木林でした。中に入ると方向を見失うほど樹木が密生していました。

でもこの機に思い切って買うことにしました。奥のほうに行くと120年を越すスギの立木が何本もあり、どうせならと伐採して建築に利用しました。我が家の主たる構造材は自前のスギ材です。こうして土地を開墾し、住宅を建てました。周辺の人たちもここに住宅が建つとは想像もしていないようでした。



120年を超えるスギ材

現在、この地に居を構えられたのもFITが作ってくれた縁と感謝しています。

・気に入っているところはどこですか？

薪ストーブが気に入っています。暖かさがやわらかいですね。冬でも素足でもいられます。薪は裏庭で除伐した材を利用していますが、太い物は私では割れないので業者に委託加工してもらってます。ストーブのクリーニング代、薪の加工代など経費は他のものより少しかかります。

それと、一番気に入っているのは2F寝室から眺める朝焼けです。ここからの景色を眺めているだけで幸せな気分になれます。



・引っ越されてからはどんな活動をされていますか？

特に意識して活動はしていません。年に2~3回程度、自然観察をしている程度でほぼ隠遁生活です。この辺は周りが全て自然林のような放置された環境なので、地域の人にとってはそれが当たり前で特に興味をもつ人は少ないです。観察会も地元ではない人の参加が多いです。

・引っ越されてから生活がかわりましたか？

裏庭の整備手入れや薪をつくったりと結構やることがあります。手入れのお陰でシュンラン、チゴユリなんかも顔をだします。また、コアジサイ、オトコヨウゾメなど周辺地で草刈りにあって生長できないようなものを植えたりしてマイガーデンに手を入れています。また光を入れて、タラノキやモミジイチゴなど季節の味も楽しんでます。ただこの辺でもカンナガの被害がひどく、太いコナラがやられてしまい、どのように処置しようか思案中です。そんなことをしていると以前と違って近隣の住人との新たな関わりが増えましたね。今年(2024年)からこの辺りの班長が廻ってきました。それを機に皆さんに月1回観てもらおうオープンガーデン

を企画したり、ついでに参加者と茶話会を開いたり、近隣とのつながりが出来ましたね。この辺の人は一人で住んでいる人が多いので結構集まります。行政もいろいろなイベントや講座などコミュニティー作りに力を入れています。

また今までの手間を抜く生活から手間をかける、手間がかかる生活が普通だと思えるようになりました。泥がついている野菜が当たり前になりました。

それに、チョットした物をやり取りするお裾分けの習慣がまだ残っています。

特筆すべきは食べ物がとてもおいしく感じられることです。野菜など味が全然違います。どうしてなのでしょう。

・何かメンバーへのメッセージ

こちらにお越しの節は是非お立ち寄り下さい。東武東上線男衾駅徒歩15分です。10人程度なら泊まれますから是非お越しください。皆さんと一緒に話がしたいです。

・実際に訪問してみると

間口約20m、奥行き約100m超の広大な敷地(約650坪、2100㎡)に、1F食堂には30cm角の大黒柱をはじめ24cm角の太い柱が計4本、それらを繋ぐ大きな化粧梁、厚さ6~7cmの食堂テーブル、キッチンカウンター、2F寝室のデスクなどは、全て生えていたスギを利用したものです。床や階段、建具もスギの県産材で素足でも冷たさは感じません。マメザクラの樹皮を磨き上げた階段手すりなど注文者と受注者が一体となって作り上げた作品だと強く感じました。



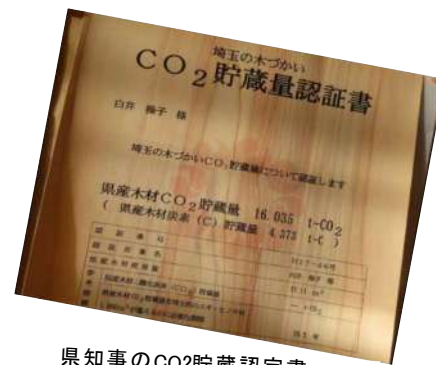
400坪以上ある広大な裏庭



薪の保管場所



スギ材と漆喰の家



県知事のCO2貯蔵認定書

・編集後記

入会3年目、新年観察会の班長をやった東御苑では、事前研修のレクチャーをしていただきました。芽鱗痕やドングリの生長の話などいきいきと解説する姿がとてもさわやかでした。10年前から描いていた理想の住まい方を実現して、スローライフを満喫し充実感に満たされている姿にFITメンバーなら必ずあこがれるでしょう。【 清水(好)記 】

令和6年 むくの会 の 自己紹介

むくの会の皆さんにお伺いしました

- ①お名前とひらがなで読み方
- ②好きな植物や生物・フィールドなど
- ③なぜ森林インストラクターになったか？
- ④これからどんな活動をしていきたいか？

① 岩村 滋 (いわむら しげる)

- ② 好きな生物→野鳥。啄木鳥、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ヤマセミ、猛禽類などなど。
- ③ フライフィッシングが好きなのでヤマメ、イワナ、その他狙える魚は全て。

アウトドアアクティビティの延長です。自営業者です。刺繍屋さんをしています。休日は季節に合わせてテントとハンモック、竿を背負って山へ。色々な事を

- ④ 知る事で人生が豊かになると思い、森林インストラクターの勉強を始めました。

日々が忙しいので中々活動に参加できませんが、5年10年後位にはインストラクターとして自分らしく、参加者に対して接していけたらと考えています。楽しく自然を満喫していきたいです。

どうぞよろしく願いいたします。



① 天野 好章 (あまの よしあき)

- ② 学生時代は北アルプスなど→職場の仲間と関東の低山など→京王線沿線住民で最近主に高尾山です。5年ほど前からは草花やキノコの写真を撮って、覚えて、調べてを続けながら、鳥、虫そして樹木も・・・だんだん興味が広がっています。特にスプリング・エフェメラルたちに心躍ります。

- ③ 山や自然をもっと知りたい & 山や自然の関係で役に立ちたい、と思っていたらFITのHPIに出会いました。

- ④ 子供たちに楽しさを伝えられるようになりたいと思います。まず今年は、森づくりを中心に、と思っています。



① 瀬川 裕啓 (せがわ やすひろ)

- ② 植物はこれから勉強します。水族館の魚類を中心に飼育係を長年やってきたので生き物はそこそこ詳しいですが、爬虫類は得意です。

カッコつけて撮影遠征と称していますが、長野や足尾、山形とかに出掛けて動物を追い求めています。前世紀は新婚旅行でブラウンベア目当てでアラスカに。どなたかツキノワグマに出会える場所を教えてください。

- ③ 撮影が趣味なのでカメラ持って野山を徘徊しています。被写体は動物ですが、自分の知識を増やすにはもっと広範な知識が必要とずーっと思っていました。

森林インストラクターという資格は相当前から知っていて、興味はありましたが植物の知識が無いので断念していました。FIT友の会 養成講座でサポートしてもらい念願叶いました。

- ④ クラフト、観察会や火おこし、草木染や山歩き、林業など何でもやってみたいです。



① 大角 勝美(おおすみ かつみ)

② 当市の街路樹：ケヤキ、クヌギ、クスノキ、イチョウ、ヤマモモ、シラカシ、コブシ、サクラ等

③ 「2025年問題」⇔「高齢期の森林」は、高齢に対する評価が、負⇔正とされる。「問題」から「生物多様性を育む」等、正の評価に森林内の野外活動が一役買えないかと。森林内の野外活動は、(1)誰でも参加できる、(2)社交性、(3)遊戯性重視ですが、森林まで移動するのは難事業。そこで、eスポーツならぬ、「e—森林内の野外活動」で、バーチャルから興味を持ち、本物の森林まで行ってみようとならないか、などと考えております。

④ 特技はないのですが、地球温暖化抑制や水害などの災害防止につながるような活動ができる場所があれば微力ですが参加してみたいと思っております。



① 大木 義之(おおき よしゆき)

② 生きものは何でも好きですが、特にモモンガ！ ご近所も人工林も大自然も、五感で感じれば何でも最高！

③ この文を書く今が58歳の誕生日。写真はウソつきでゴメンナサイ！ 23年前、番組制作の撮影地で撮ったものです。当時、ペンギンのヒナの多くが、南極では降るはずのない雨で、水没した巣で溺死しました。雪は降り落とせますが、雨は幼羽を通してしみこみ体温を奪います。……当時、危惧されだした地球温暖化は、今も止まらず。多くの人が「自然好き」になることが大事？

④ 散歩、散策、観察会、登山、林業…とどんな体験でもワクワク…。そんな気持ちが、自然とわきおこる。特に次世代の子ども、親御さんたちが、リピーターになるようなイベントを企画、実現、広めたいです。



① 小島 紅子(こじま こうこ)

② 好きな木 ハクウンボク、カツラ / 好きなフィールド 林業の作業現場

③ 10代の頃から自然の中で遊ぶ事が好きで登山やキャンプを楽しんで来ました。2020年から、とうきょう林業サポート隊という団体で、林業を週に一回程度行っています。林業には元々興味があり、活動を通じて森林整備や道具の使い方など森林組合の方が教えてください、学ぶことが多くあります。そして更に深く森林、林業について学びたいと思い、森林インストラクターの資格にチャレンジしました。

④ 一人でも多くの人に森林の持つ多くの効用や保全、整備の大切さを伝えて行きたいです。

★写真：東京森林組合が所有する日本で2台しかないモンスターハーベスタ。見学時に座らせてもらいました。



① 久保田 恭司(くぼた やすし)

② 好きな植物や生き物:特になし

③ 地域のボランティア活動「練馬みどりの推進会」の会長の勧め。(会長も森林インストラクター)

④ いろいろ体験してから、自分の好きなモノに打ち込みたいと思います。チェーンソーによる伐倒を行いたいので「パウロの森くらぶ」に参加しましたが、先ずは、FIT森林塾で森林施業の基礎勉強をするようアドバイスがあり、これにも参加します。また草木染体験も面白そうなので参加します。森林インストラクターとして植物のガイドも行いたいので森遊倶楽部や高尾グリーンクリーンにも参加します。



① 生駒 薫(いこま かおる)

② 木が好きなのはもちろんの事ですが、特に巨樹・巨木が好きです。山や神社で大きな木を見るたびに、感動しています。

③ 山や湿原を歩いていると、「どうしてこんな所にこんな花が咲いているんだらう?」「何でこんな木の形をしているんだらう?」など、自然の中の「?」の答えを知りたくて、森林インストラクターの勉強をしてみようと思いました。

④ 自分が木や花について知ることが出来て、面白かったこと、不思議だったことを、いろいろな人に伝える方ができれば、嬉しいです。

① 外山 史也(とやま ふみや)

② 特に、水草やシダ、野鳥、きのこが好きです。仕事で山梨県の櫛形山、鹿児島県の屋久島をフィールドにしている他、趣味で関東近辺の低山や日本アルプスに登ります。

③ 自然環境を守るための人材を育成する専門学校で、植生調査法や保全生態学を教えており、スキルアップのために資格を取りました。身近に森林インストラクターが複数いたことや学生時代に林学を学んでいたことも、受験を後押ししました。

④ 普段はすでに自然に関心がある学生を相手にしているので、子どもから大人、関心の薄い方を含め、より幅広くいろいろな方に自然の魅力を伝えられるよう、研鑽を積んでいきたいと思っています。



① 小笠原 剛司(おがさわら たけし)

② 植物・生物全般好きです。地理・地層・地形も好きです。高尾山・関東近辺の低山を徘徊している。

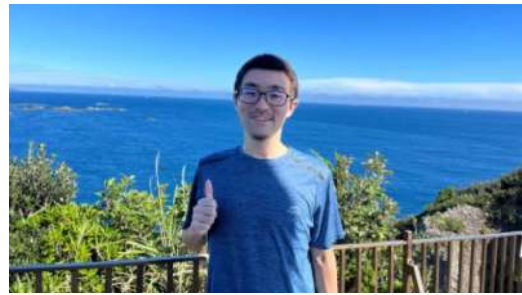
③ 大昔、植物生態学を専攻。卒業後ドロップアウトして他の道に進んだ。20代後半は、ネパール・インド・中国・ヨーロッパをバックパッカーしていた。仕事をやめた後、里山と東京サンショウウオの保全をしている友人に里山を案内してもらったことを切っ掛けに再び植物を学び楽しみ始めた。今、高尾森林ふれあい推進センター・FS高尾で主に小学生4・5年生を対象に森林環境教育のボランティアをしている。更に深く森林・自然のことが知りたくて、森林インストラクターになりました。

④ 自分の興味・探究心を満たしながら、環境教育・自然観察ガイドに係わっていきたい。



① 齊藤 英希 (さいとう ひでき)

② 好きな植物は檜や柏槇です。森林浴では香りがよく癒やされますし、巨木の姿は立派で見事です。檜製品もよく使っています。また、長野生まれなので白樺も好きです。ここ最近では伊豆によく行きます。関東や中部エリアが多いですが、休みを使って全国を回っています。キャンプします。生き物は馬やネコが好きです。



③ 私は林業などのバックグラウンドはなく、仕事も自然関係ではありません(中小企業支援をしています)が、自然スポットめぐりが好きで、現地で自然や生き物のガイドをいただく中で、自分ももっと深く知り、人に伝えられるくらいになれば、という思いで勉強を始めました。

④ 森づくりのほか、山登り、釣り、狩り、木工芸、DIYなどに挑戦したいです。キャンプの技術も高めたいです。民俗にも興味があります。将来、自然豊かな土地への移住や創業も考えています。自分でイベントも企画していけたらと考えています。これからどうぞよろしくお願いいたします！

① 栗原拓海 (くりはら たくみ)

② 昆虫の中でも特にクワガタが好きなので、里山や雑木林に惹かれます。なので、多くの昆虫が集まるクヌギがお気に入りの植物です。

③ 昆虫の飼育を始めたことと森林療法に興味を持ち始めたことがきっかけで、森林という環境の事を多角的な面から深く理解したいと思い資格を取ろうと思いました。

④ 今後は、森林インストラクターとしては、生物観察の活動を主に やりつつ、森林という活動の場を通じてサービスを提供する具体的な方法を学んで行きたいと思っています。また、植物にあまり明るくないので、活動を通じてより理解と知識を深めたいと考えています。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

① 市川 伸一 (いちかわ しんいち)です。70才超の「遅れてきた老人」です。

② 特に生き物の種の好みなど拘りは無く、出向いたフィールドで様々な生き物に出会い、心高まる時間を過ごすことが好きです。

③ 数年前、自然観察会に(知識・経験が皆無の身で)所属することになりました。同会に複数の森林インストラクターが活動しており多少なりとも追いつければと思い、森林インストラクターを目指した次第です。

④ FITの研修会などの活動を通じて、自然観察に関わるスキルを高め、それが結果的にFITに限らず観察会等のイベントの参加者を楽ませることに繋がると考えています。皆様のご指導等、宜しくお願い致します。



① 川島 直子(かわかみ なおこ)

- ② 高山ばかり行くかずっと山中を走ってばかりの時期もありましたが、最近では近所の奥多摩エリアをウロウロし季節を感じるのが好きです。いい匂いのお花が好きです。この時期なら蠟梅とか。生物だと爬虫類、猛禽類が好きです。名前は詳しくありません。
- ③ 自然に包まれて過ごすことが一番の幸せだから、もっと好きになりたくて、この気持ちを多くの人と共有したかったからです。
- ④ 森林保全や環境保全につながる仕事に関わったり、自然の循環について考える機会がなかった人達に少しでも刺さる企画を考えて、自分事として一緒に守っていく仲間を増やす活動がしたいです。



① 坂倉京子(さくらきょうこ)

- ② 都立高校生物教員、現在は定年を過ぎ非常勤勤務です。福岡県の超山奥で育ちました。小さいころから虫や哺乳類が好きで、その食草や住処を知る過程で樹木も好きになりました。子育てが終わり、今は虫育てを楽しんでいます。特にあげるなら、チョウ、ハチ、(ツノゼミ)、ニホンジカ、樹木はケヤキ
- ③ ④ 仕事の傍ら日の出町で森林整備や棚田保全のボランティアをやっていますが、その技術を生かしてもう少し子供たちと自然の中で遊びたい、同じ思いの仲間と知り合いたいと思い資格試験を受けました。最後にチクワ好きです、登山で疲れてもチクワで元気が出ます。



① 植木 暢子(うえき のぶこ)

- ② ようやく何種類かの木?の名前を覚えたところでまだ推しはありませんが、生きるためにいろいろな工夫をしている自然界に興味津々です
- ③ 深川の下町育ち、森林には縁遠かったのですが、社会人になり職場で山好きの仲間と出会いあちこちの山に登りました。メジャー?な高山植物はわかるけど、木がわかるともっと楽しいよねーと思い、森林インストラクターいかもと挑戦しました。
- ④ 何の知識もないまま飛び込んでしまいましたが、その分体験し知った時の喜びや感動は大きい、いろいろ挑戦し自分が楽しみその楽しさを伝え楽しんで頂けるようになりたいです。いろいろ教えてください、よろしくお願いします。



① 高橋 ひとみ(たかはし ひとみ)

- ② 奥多摩がフィールドで、山歩きが好きです。生きものは野鳥とムササビに特にときめきます。自宅周辺と勤務先周辺に住んでいる野鳥を毎朝観察するのも楽しいです。
- ③ 御岳山でムササビ観察会に参加してインタープリターの方の話しがとてもおもしろく、いままで何回も行ってた御岳山の見えかたが大きく変わり、もっと自然について生態系について知りたいと思い森林インストラクターの資格取得を目指しました。
- ④ まだまだ知識不足なところも多いので、FITの活動に参加しながら学んでいきたいと思っています。将来は、アウトドア会社の勤務経験を活かして、キャンプ場やアウトドア会社へのアプローチをしてイベント提案などを行いたいです。



① 吉村 真木子(よしむら まきこ)

- ② (私の名前の通り)真っ直ぐな木が好きで、シラビソ、オオシラビソなど。冬の森を明るくするカラマツやブナも好きです。よく行くのは八ヶ岳や日本アルプスです。普段は森とは無関係な金融の仕事をしているため、森に触れる機会はほぼ週末の山歩きに限定されています。
- ③ 山登りが趣味で、山に続く森をもっと知りたいと思い、森林インストラクターの資格にチャレンジしました。ただ、資格を取ってからの勉強がずっと大変だと、実感しています。
- ④ 森の魅力＝生命力を伝えられるインストラクターになりたいと思います。森に興味のない人を森にいざなうための取り組みを考えていきたいです。人に興味を持ってもらうことで、手入れがされていない森を少しでも減らし、自然が侵されつつある森を少しでも元気にしたい、そんな活動ができればと考えています。



① 渡邊 維真(わたなべ まさみ)

- ② 元々は哺乳類がメインでしたが、現在はハチ、ハムシ、クモ類、野鳥などに興味があります。生きもの全般の食事しているところを観察するのが好きです ☺
- ③ 仕事で環境教育や、自然ガイド、雑木林保全など幅広く野外で活動する機会があり、自分の知識を広げるためにも森林インストラクターの資格を取得しました。
- ④ 今は0歳児の娘の育児をしています。娘が小さい事から、直近での活動は難しいなと感じておりますが、野外での活動は好きなので落ち着いたら活動を積極的にしていきたいと思います！親子自然体験やガイドなどの活動希望です！よろしくお願いします ☺



① 沖田 董(おきた すみれ)

- ② 山野草が好きで、特に早春植物には心を奪われます。地味ながら味わい深いスゲの仲間も好きです。前職では自然環境調査会社に勤め、東北各地を巡りました。最近は子どもが小さいため、身近な公園で植栽木や野草を観察しています。
- ③ 網羅的な知識を身につけ、実践力を高めたいと考えたのがきっかけです。特に、苦手な伝える力を伸ばしたいと思い、資格取得に挑戦しました。
- ④ 観察会のニーズに応じたガイドができるようになるのが目標です！年齢や関心の有無を問わず、自然の魅力を楽しく伝えられるようになりたいです。
子どもが小さいため、活動は限られるかもしれませんが、できる範囲で参加したいと思っています。よろしくお願いします。

① 大津洋介(おおつ ようすけ)

- ② 好きなことは、とにかく自然の中にいることで、特にブナ林や高山植物などの植物が好きです。高校時代に登山をはじめ、うん十年、林学科を卒業して、緑化、土壌、地質、砂防などの環境系の建設コンサルタント会社で仕事してきました。今は登山技術を教えながら、全国の山を歩いています。
- ③ 私の登山教室に参加していただいている方々には、登山技術以外に自然の素晴らしさも知ってほしく、今までの仕事の経験から自然のこと、樹木のことなどを話してきました。しかし、まだまだ自分自身知らないことが多いこと、より多くの人に自然の素晴らしさを知ってもらいたいことなどから、森林インストラクターの資格をとりました。
- ④ 今後は生態系など自然のしくみなどを多くの人に伝えていきたいと思っています。
みなさま、指導よろしくお願いいたします。



① 為野 陽子(ための ようこ)

- ② どちらかといえば(いわなくとも)木本好き。
【好きな樹】カツラ、タビビトノキ(草本ですが…)。【初めて同定した樹】イギリ。【気になる科】ハイノキ科、フトモモ科、ヤマモガシ科バンクシア属。【2025年度推しガモ】オカヨシガモ。【好きなフィールド】石神井公園、新宿御苑、上高地。
- ③ 数年前から地元(石神井公園)で水辺の生態系と武蔵野の自然の保全活動をしております。そこで樹木の魅力にはまり、色々な樹に会いたくて、植物園や公園を巡っているうち、縁あって新宿御苑のボランティアガイドになりました。
最初の頃は、自分と同じように、「世の中の人は皆、木について知りたいはず」と思い込み、『樹木の名前を覚えよう!』というお客さま参加型のガイドをしていました。
- ④ …とはいえ、皆が皆、木に興味があるわけではなく、人気はやはり、花！そこで、季節の花(特に樹に咲く花)を積極的に紹介するよう軌道修正。目下、お客さまの要望に応えつつ、樹木の魅力を地道に売り込むスタイルを模索中。お客さまと楽しいひとときを共有できるインストラクターを目指しております。



*事務局便り

厳しい寒さが続いています。健康および安全には、引き続き十分な配慮をお願いいたします。

本号は、3月15日(土)開催の2025年度(令和7年度)FIT総会のご案内および議事資料を掲載しています。皆様、必ず目を通してください。

●会員情報:1月31日現在会員数356名(含む新入会員22名。)

お知らせ

(1)FIT名簿更新

FIT会員名簿の次回更新は3月末となります。最新版がFITデータベース(旧HP)に掲載されていますのでご確認ください、訂正等があれば3月20日ごろまでに事務局あてにご連絡ください。

(2)来期会費関係

会計よりご連絡の通り、2025年度(令和7年度)の会費納入(2025年3月1日～2026年2月末日分)は、2月末日です。

自動払込を申し込んでいる方は、2月28日が引落日となります。

2月27日までに、余裕をもって口座に入金をお願いします。

振込をされる方は、2月28日までに、FIT口座に振込をお願いします。

(3)新年イベント

今年の新年イベントは、1月11日(土)に「新合格者FIT入会説明会」「新年自然観察会」「新年懇親会」が実施されました。

「新合格者FIT入会説明会」場所:日本教育会館 新合格者18名参加。

新合格者同期会の愛称は“無垢の会”となりました。(R6年の「6」にちなんで、そして「無垢」に「初心忘れず」との意味を込めて命名)

「新年自然観察会」場所:北の丸公園 参加者105名(内新合格者16名)。

「新年懇親会」場所:日本教育会館 参加者65名(内新合格者12名)。

幹事の“みきの会”(令和3年)の皆様、大変お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

フォレスト通信 Vol.143

発行者 森林インストラクター東京会

編集 広報部会 清水好博 西出幸子

取材協力 立川洋一

事務局長 藤岡 眞

所在地 〒263-0005 千葉県稲毛区長沼町87-3

スマートビレッジ稲毛F棟503号

メールアドレス: sfujioka0206@yahoo.co.jp